新潟の水辺だより

Vol.43

●編集発行・新潟の水辺を考える会　●発行日・1997年11月22日 Vol.43

TOPICS

通船川ニュースができました。

通船川ニュースが発行されることになりました。これは、漸く緒につこうとしている通船川の再生への道程で問われるであろう、市民・行政間及び市民相互間の「情報の共有」という課題に応えるため、市民の側からごくごく自発的に（つまり手弁当で勝手に）そのための手段を提供しようという趣旨で発行されるものです。

発行は、1995年以来通船川をテーマとした「環境講座」の仕掛人としての新潟市東地区公民館を肝入りとし、通船川ルネッサンス21、中地区を考える会そして新潟の水辺を考える会で緩やかに親密な連携を保ちづつ活動している通船川ネットワークがその責を負い、これらの団体から必要な人材と情報を提供しあって編集してゆく計画です。

発行のための資金は当面、河川整備基金からの助成金を使わせていただいていますが、いずれは企業など市民からの寄附を募ることとし、この「情報の共有のための手段」を共有していただく意味で、いつかはお金を出して読んでもらえるミニコミ誌を目指したいと考えています。

10月16日付けで発行した第1号は、発行母体の通船川ネットワークの活動紹介を中心にした内容で1万部を印刷し、沿川の町内会、企業、小、中、高等学校、公民館を通して配布しました。ただ、これからの通船川ニュースは、こうした活動紹介やPRに停まっていることはできません。

水辺だよりの読者には釈迦に説法のようになりますが、通船川は、全国のほとんどすべての川や水辺がそうであるように、「自動車の発達や水田の土地改良、生活様式の変化、さらに地盤沈下の影響や新潟地震後の直壁護岸改修などによって」住民との関わりがすっかり薄れてしまいました。（カギ括弧は「通船川マスタープラン」大熊試案より引用しました。）

そのように、人が川の恩恵に鈍感になり、人間中心のわがままな関わり方を当然と考えるようになったことが一つの大きな原因となって、今の通船川の姿があるように思います。また、身近な自然から多くのことを学び、肌を通して様々な自然の恵に触れるという経験をする場が子供たちの回りから失われていることもとても心配です。

つまり、通船川の再生を考えてゆくためには、住民と川との関わり方を、そして川を通した人と人との関わり方をこれからどのように再構築してゆくかという観点が大切で、そのためにも先ず、私たちを含めて住民自身が通船川の今の姿からできるかぎり多くのことを学び、通船川を仲立ちとしてお互いに知り合い、交流し会う機会を作りだすことが必要なのだと思います。

そのために通船川ニュースは次のようなことをしていこうと考えています。

◇歴史の発掘

・地域の方が保管していらっしゃる写真などの資料の発掘整理とその紹介・既存の文献や水内邦夫さんの研究、それに村山優子さん、酒井真弓さんの研究のなかの聞き書き調査を参考に通船川と住民との関わり方を時代区分ごとに整理し紹介する（直接インタビューも）・通船川流域の歴史や遺跡、古い建造物などの紹介（集落の地割、建築、水蔵）

◇今の通船川の姿

・通船川の自然の調査と紹介・水質、ヘドロ、ゴミなどの現実の調査と報告・産業と川（沿川企業の紹介）

◇再生への展望

・地元住民の再生への活動や思いの紹介・宝物発見カードの集計・行政の方針や計画の情報紹介・管理者など行政の研究などプランの紹介・他県、外国などの先進事例の紹介

その他「情報の共有と協働」をキーワードに足を使った取材と記事を提供したいと思っています。ご協力をお願いします。

通船川ニュース編集長　浅井　敬一

第一回にいがたの水辺賞に新潟市立赤塚中学校白鳥環境愛護委員会

これからの水辺環境を守り育てる「水辺守」を育てることを目的に、県内の青少年を対象に表彰とささやかな副賞を贈る第一回にいがたの水辺賞に新潟市立赤塚中学校白鳥環境愛護委員会を選びたいとお伝えしたところ、お受けして頂くことができました。受賞者の委員会の皆さんからは次号の中で、メッセージを頂くことにします。11月22日の水辺のシンポジウムの席で表彰させていただきたいと考えています。

選考理由

貴委員会活動は潟の自然との関わりが薄れつつある中で、継続的に白鳥観察に取り組んでおり、その成果は多くの人々が評価している。当会では佐潟がラムサール条約登録地となった今、潟と住民、市民と潟の関わりをどのように継承・育成してゆくかが重要なテーマと考えている。そのため、貴委員会が今後も潟の自然の移り変わりを観察記録してゆかれ、潟を守りつづけることを期待して選考いたしました。

1．名称

にいがたの水辺賞

2．賞の目的

水辺の自然環境や歴史文化環境の保全保護・観察研究・水遊びなどの活動を通した仲間づくりの活動・交流の支援、将来の水辺環境を守り育ててゆく人々、特に子供たちを応援することを目的とします。

3．選考対象

主として高校以下の青少年、児童の団体、個人を対象

4．選考基準

1）自然や歴史・文化の水辺環境を保全する清掃・管理等の活動に貢献していること。
2）水辺動植物観察研究の優秀な成果(記録保持)のあること。
3）レッドリストの水辺動植物保全活動の優秀な成果のあること。
4）水辺の情報収集発信（本づくり、ホームページづくり、展示など）の優秀な成果のあること。
5）水遊びスポーツなど水辺を親しむ工夫や仲間づくりの交流の優秀の成果のあること。
6）環境づくりなど活動が持続されており、地域の環境向上などに還元されていること。

5．表彰内容

1）表彰の盾を検討中
2）副賞　5万円以下のお金か図書券、物品

世話人　相楽　治

Opinion-1 オピニオン1

Interfere or Help . . . ' Hands-On'Conservation

No matter what natural scene there is on this planet, in some way, man has been a part of it. In all too many cases we have degraded the biodiversity of the scene, destroyed it even. In some places man has been a part of the scene without degrading it, as with some tribes in primeval forests, now, alas, severely threatened.

The level of biodiversity loss that we know about even, let alone the myriads of species that we don't know, has reached such a serious level that governments, through the United Nations, have signed a global treat promising to protect it.

What is protection? Personally, I don't believe that 'Let It Be' means to leave or ignore it. Nowadays, a virgin forest or a rich wetland, even if it is desirable not to have people cutting trees or hunting animals, needs active rangers and researchers, watchers and guides, to ensure that the natural wonders are left for the future.

Much of our nature has been degraded, and it is time that, through human effort and understanding, we once again learn to be a part of nature.

Having lecture and written so much about the neglect of Japan's forests, about the cutting of the last patches of virgin forests, about the changing of rich mixed forest into single species conifer tree farms, then about the horrible concreting of rivers, the filling in of invaluable wetlands, I decided to use what money I had to buy abused and neglected land and to do what I could to improve the biodiversity, to endeavor to bring it back as closely as possible to what it was before the Meiji period. A near impossible task.

We cut, trimmed, planted. Where the land had been bulldozed, then left, where there was poor drainage, but not so that the place had become a viable swamp, we dug large ponds.

The 'vision' of the ponds was to encourage all kinds of aquatic insects, as well as frogs and birds. To hold the banks and to provide habitat, we planted willows, bullrushes, reeds, water iris, and water weed. A good natured friend, without consulting me first, introduced carp.

One of the things that flourished was the water weed. For three summers it choked the pond and discouraged ducks. I decided to remove as much of the weed as I could in late August, throw it up and spread it over the banks, where it would fertilize the red soil. This it certainly did, the cherry trees we planted grew magnificently, and soon dozens of other plant, and therefore, insect species, came to colonize.

The carp also flourished, and soon we had not only visiting ducks, but also kingfishers. Eventually the carp grew large enough for us to harvest them for food, and for the carp themselves to eat enough of the water-weed so that it survived and provided shelter for carp spawn, but did not any longer choke the pond.

When invited to come and join the 'lily pullers' I was delighted to accept, even though, it meant cutting short a filming journey to the wilds of Canada . When I saw the huge numbers of lilies and so few water birds for that kind of area, I became convinced that what I had been told was true. Eutrophication and enriching of the water from agricultural fertilizers had caused the lilies to grow and for open water to be choked.

In such a case, locals make the decision. So we let this lilies go on spreading and contributing their mass to the wetlands, until all shallow open water becomes bog, or do we try to do something to help with the balance and encourage more water life and water birds.

As parts of the lily are edible and good, I believed that an experiment was worthwhile. Remove the lilies, not all of course, eat what is edible, then mulch compost the rest for wonderful agricultural fertilizer. Who knows? Such an experiment has been done before, cutting down the need for artificial fertilizers, as well as improving water life.

Whatever, the experiment was fun and did no harm, and got a lot of different people together.

I was shocked however, to hear one volunteer suggest that black bass be released. That, believe me, would be an ecological crime, one that is already destroying native Japanese species all over the country at an unprecedented rate.

The numbers of lilies are so vast though, that it would take a concentrated and organized effort to do much about them. Personally I think it should be done, but I have always believed in, and carried out, 'hands-on' conservation, and have little time for most distant and deskbound experts.

C .W. Nicol
Kurohime
September 22nd.
1997

オピニオン-2

Opinion-2

新潟市環境基本計画（素案）に対する意見

新潟の水辺を考える会会長　大熊　孝
世話人　相楽　治
同　進　直一郎
同　浅井　敬一
同　高橋　正良
同　五十嵐　実
同　石月　升

新潟市が「人類存続の基盤である地球環境が損なわれるおそれがあることが世界共通の認識となって」いるという基本認識のもとに「自然と人間の共生」を理念とした新潟市環境基本計画（素案）を策定されたことに敬意を表しつつ、とくに当会の活動分野に関わる部分について若干の意見を述べさせていただきます。

基本計画（素案）は、平成8年7月2日に制定された新潟市環境基本条例第3条に基づくもので、同条は環境保全に関して環境基本計画では、次の事項を定めると規定しています。

(1)長期的目標
(2)政策の大綱
(3)環境配慮の指針
(4)施策の推進計画

基本計画（素案）の第1部および第2部まで（本素案の約64％を占める部分）は、(1)~(3)に該当する部分で、環境行政の基本的な方向を記しています。

この部分については、当会の活動の基本的な理念と合致しており、共感し、おおいに触発される記述となっております。ただ、新潟市の環境の現況分析に関する事項について、以下の点を補足いただければと思います。

地形、気象、緑被率、公園面積、土地利用の現況、貴重な生物、伝統的・文化的・産業的な自然利用や技術を含め、新潟市全体の自然環境の構造的な現況など、政策の根幹に関わる客観的な資料を掲げて、全体計画（第2部）の各施策に照らしながら、

①減少、抑制、規制を基本として対処すべきもの
②保全、保護、拡大、増殖を基本として対処すべきもの
③質的改善、活用、継承を基本として対処すべきもの

などに整理して、基本的な行政姿勢を明示していただきたいと思います。

さて、私たちは「環境保全」や「自然との共生」は、基本理念に加えてきわめて具体的な施策が提起されなければならない課題だと考えています。そのような立場から特に第3部および第4部に注目しました。

第3部は市域を8地区に分割して、地区概要、環境特性、環境課題、環境保全基本方針などについて記載されています。

各地区ごとに言及することは別の機会にさせていただきますが、共通して感じられることは、環境特性の把握が一部の例外を除いて「現況肯定」の立場から行われている点であります。

環境の現況を肯定的に評価することの当然の帰結として、環境保全基本方針では「可能な限り維持・保全に努めます」「自然生態系に配慮した利用を目指します」などの努力目標的な表現が多くなっているように思います。

例えば、佐潟の現環境の評価については、さまざまな専門的分野からの指摘があり、市民全体としての合意形成がなされているとはいい難い現状にあります。しかし、

①水質が悪化の方向にあること。
②貴重な生物がすでに絶滅し、さらに絶滅の危機にさらされている多くの生物が存在すること。
③湖沼景観を阻害する建造物等があり多くの市民から改善が求められていること。
④潟と地域産業、習俗、文化等の関わりが稀薄になっていること。

などの事柄については、客観的な事実として表記しなければならないのではないでしょうか。

そうすれば、「この財産を、次世代に引き継ぐことができるよう保護・保全に努めます」などという抽象的な基本方針ではなく、例えば「貴重な湖沼の生態系や美しい景観をこれ以上悪化させないことを最低条件とし、さらに多様な生態系と優れた景観の創出を目指します」といういうような具体的で、積極的な方針が導き出されるのではないでしょうか。

次に、第4部について、この部分は環境基本計画の推進体制を定めたものであります。行政の進行管理体制は「環境保全調整会議」に委ねることとされていますが、その構成や現行の調整機能、調整案件等についての説明がありません。少なくともどのような案件を「調整」の対象とするのか。「調整」の結果や審議の内容は公開されるのか否か等については、明確にしていただきたいと思います。また、市民参加の推進については当会としても積極的に評価しており、市民環境会議の役割についても肯定的にとらえておりますが、発足したばかりの市民環境会議に多くを期待することは困難であり、これだけで市民参加が実質的に担保されるかと言えば、あまりに不十分だと言わざるを得ません。

環境に関わる因子は多様で、極めて専門的です。市民の中にはそれぞれの専門家や研究者がおり、団体や企業が存在します。

これらの個人や団体にどのように環境基本計画の推進に参画してもらうのか、具体的な事例を想定した推進体制の確立が不可欠ではないでしょうか。

以上、基本的な事項を中心に意見を記した次第ですが、環境基本条例や基本計画（素案）の基本的な理念について積極的に評価する立場から、当会もおよばずながらこれらの施策を実効あるものとするために協力をして行きたいと考えています。

十分に意を尽くせない点もありますが、上記の意見についてご検討いただければ幸甚であります。

（文責）世話人　石月　升

Report-1 水辺情報-1

佐潟ハス採り大会の感想

ハスの茎に刺があるのは分かっていたが、こんなに強固なものとは思いも寄らなかった。半袖半ズボンで潟に入ったので腕や足は傷だらけになり、ひりひりした痛みがしばらく続いた。カヌーをこいだ人達は、いったん入ったら容易に出てこれないハスの中でもがいていた。100人がかりで1時間、蓮根を採ろうとしたが、ほとんど目立った効果を上げることはできなかった。地元のおばあさんにはかなわない。植物の生命力をいやというほど感じたのがハス採り大会の感想だ。マスコミ受けが予想以上だったのは私だけでだろか。また来年もやろうじゃありませんか、もう少し蓮根が大きくなった頃。

ニコルさんもどろんこ状態

編集鳥（長）高橋　正良

佐潟ハス採り大会に参加して

9月6日（土）の佐潟ハス採り大会の案内を見て参加を楽しみにしていた。当日は晴天に恵まれ最高の日和なのに、たまたま仕事が入り出勤。何とか会場に着いたのが1時半頃。参加者はすでにハス採り場に移動開始。私は、高橋（裕）さんがカヌーで移動との事を聞き同乗を願う。カヌーでの移動はハス林の中を通過しなければならない。ハス林の中は思ったより密生しているのと、ハスの葉の茎は固い上にトゲが多くて通過するのも大変だ。又陸上から見るより繁殖面積が広く、方向を見失うようでした。どうにかハス採り場に到着。参加者がそれぞれのスタイルでもくもくと掘っている。カモや白鳥が池の中をあさっている姿に似ている。私も童心に返って泥ん子になって掘るが始めての事、要領がつかめず長い長い根っこだけ肝心の太々したうまそうな蓮根はどこえやら、とうとう時間切れ。採れたのは太さ2～3cm、長さ20cmくらいの物1本だけ。でも楽しかった。

終了後の広場で蓮根のみそ汁、天ぷら、野菜の天ぷら等、味わいながらゲスト参加されたC.W.ニコルさんとの会話も出来、楽しませていただき大会役員の方々に感謝・・・。

佐潟は今まで駐車場からしか眺めたことがなかったのですが、以前より水量も少なく規模も小振りになったような気がする。自然界は人、植物、動物、水、土等が共存しバランスが取れて始めて形を造り上げて行くものと思うが、最近は何処でもバランスが崩れてきているように思います。そこで限られた範囲で自然を保って行くには或る程度、手を加えてやらなければならないのではと思います。

蓮根は年一回掘り起こしてやらないと草丈だけが密生しすぎて花付きも悪く良い蓮根が採れないと言われていますが、今回のハス採り大会も今後は佐潟を人と自然がバランス良く未来に残して行くに必要な行事の一環ではないかと、計画スタッフの皆様に感謝し次回の計画を楽しみにしています。

近藤　康市

夏の蓮掘り

先週ある農家からレンコンを頂いた。1.5メートルもある立派な代物、2日に分けて料理した。あの時、あれ以来レンコンを食べていなかった。それは当然なのだ、レンコンのシーズンは冬、これから始まる。

赤くなった蓮葉の根元を探ると苦労の末、水道ホースほどの長い根が掘れる、一本、二本と採るうちに、食卓に並ぶような太いレンコンは採れないことを知った。皆の顔に疲労感が漂い始めたころ、ニコルさんが『もう頭に来た』と叫んで、猛烈な勢いで掘りだした。

佐潟のレンコン掘りは時期的に早かった、11月では寒くて素人に掘れるはずもない、せめて5センチ径の蓮根をこの手で採ってみたい。

右から近藤康市さん、高橋裕雄さん、素晴君

角田山の下、天国にいるような一面の蓮、菩薩のように咲く蓮花、湖面をカヌーで分け入ると不思議の国へと誘い込まれる。30年ぶりに蓮の実を採った、テンプラにされたきめ細やかなレンコンの白い味は忘れられない物の一つとなった。やはり佐潟は素晴らしい。

高橋　裕雄

水辺情報-2 Report 2

第13回水郷水都全国会議米子大会
全国に通船川と佐潟の情報発信

第13回水郷水都全国会議米子大会で浅井通船川ニュース編集長と相楽が第1と第4分科会で市民の描く通船川マスタープランとラムサール登録後の佐潟について報告した。河川法の改正、地方分権、NPO法案、情報公開などの風を感じながら、諫早湾干拓や中海干拓案復活の動きについての議論が中心になった。かつて、大型公共事業中海・宍道湖の干拓を全国で初めて止めたという土地柄だけに、市長を先頭にした市民の水辺への強さ、深さを感じた大会でした。次回は、「森は海の恋人」の発信地気仙沼になりそうです。

会場の模様

世話人　相楽　治

開港5都市景観会議
横浜大会に参加して

10月31日から11月2日まで横浜市で『開港5都市景観会議横浜大会』が催され、水辺の会から江添氏と参加してきました。安政5年（1858年）に日米修好通商条約が締結され、函館、横浜、新潟、神戸、長崎の5港が開港されました。この共通の歴史を持つことを縁に、5都市で活動している市民団体が集い、交流や意見交換をする場として、5回目の今年は横浜で開催されました。『市民主導のまちづくり』というテーマでスタートして以来、歴史的な街並みの保存から最近は街づくり、文化などテーマが広がってきており、活動紹介、情報交換とあわせ、具体的テーマについて議論を深めたいという意見が多く、『開港都市の伝統・文化を活かした街づくり』というテーマで行われました。私の分科会は午前中は馬車道、赤煉瓦パーク、ランドマークタワー、ドッグヤードガーデンなどを見学し、午後から『成長する開港都市』をテーマにパネリストとして参加しました。各都市の現状や既成市街地の悩みなど商業者も参加してることにより具体的な問題点や提案が出されました。人口330万人の横浜の街の圧倒的なパワー、主催者のきめ細かな心配りと企画に感動しました。

森本　利

第5回全国水環境シンポジウムに参加

1997年11月8日宮城県石巻市で全国の市民グループをはじめ関係者250人が参加して全国水環境シンポジウム行われました。高橋と杉山が北陸ブロックの活動報告を行い、旧北上川舟下りに参加してきました。

新河川法は従来の治水、利水に加え環境面からの視点を加味して総合的に管理していくことを盛り込んだ、と紹介されました。これを受けて流域の市民ネットワークが地域の課題に貢献し、連携する必要があると建設省河川局の吉川勝秀さんが講演しました。

その後、各分科会に分かれ「河川法改正と今後の展開」「水環境をめぐる流域連携」「水辺の再生と現代の舟運」などのテーマで意見を交換しあいました。

旧北上川　舟運の旅

高橋は参加した第4分科会において通船川ニュースの発刊とネットワーク活動を報告しました。「水辺の再生と現代の舟運～東日本水回廊構想～」では地方都市において流域を見直し、川の風景を作る必要があると議論されました。780キロにおよぶ「ボートに乗ってディズニーランドへ！」というキャッチの水回廊の再発見は、夢を語る地方のアイデンティテイ復活作業に大きな役割を果たすでしょう。

編集鳥（長）高橋　正良

Column コラム

川に歌を流す会

10月19日（日）通船川第2貯木場で野草・野鳥ウォッチング、芋煮会が行われました。参加された方が詠まれた俳句を紹介します。

青鷺の翔ちし秋草色淡し　船子

往古の大河想うか葦二葉　舟繋ぐ茶屋のあたりか　秋楓

とりどりは北国にいって　みなみゆく　羽生　正和

あかとんぼ　みずではしゃいでそらをとぶ　羽生　正和

貯木場　散水しきり秋旱　白里

水辺ヨオツチジ芋煮の鍋に集ひ寄り　白里

原木に噴水廻り秋旱　幸江

野紺菊凡待つ種を抱ききり　幸江

渡し場の杭も埋もれて草紅葉　紀園

通船川鵜の羽づくろひ　紀園

通船川みぞぎは跳ねる蹠かな　ヒデ

龍巻の奇談いづこや雁わたる　石月草水

溝蕎麦や鴨の羽洛く通船川　ゆこ

シリーズ―環境を読む―
第2回　横井戸（よこいど）の仕組み

みなさん、井戸は竪穴だけでないこと知っていますか？山の斜面に横穴を掘って水を得ているところもあるのです。それは一般に「横井戸」と呼ばれています。この横穴を掘るときに大事なのは、やや登り勾配にすること（穴の口が下方）。水はその勾配に従い、穴の奥から口に向かって勝手に流れてきます。チョロチョロとした流れですが、小さな川みたいなものですね。そこから家まではパイプ（昔はくり抜いた木や竹）で引き込んでいます。竪井戸は水を「溜め⇒汲む⇒運ぶ」ですが、横井戸は「流れ⇒集め⇒引く」なのです。いまでは蛇口が取付つけられ、水道と同じ使い勝手です。しかし蛇口のなかった水が流れっぱなしの時代にこそ、無駄にしない工夫とともに屋敷まわりの豊かな水環境が整えられていたのです。次回は、その水環境についてお話しします。

入口をコンクリートブロックで補強した横井戸。

星名　康弘

会員紹介 MEMBER'S

安藤　喜佐子

[redacted]

会には昨年より参加させてもらっていますが、今迄いろいろと分からなかった水に関わる害、益等、実際に分かり、また、国・県・市の対策他、何ともならない思いと、私共はどういう事を成せばよいのか、苦しく考えさせられています。
生まれは中越。元小学校教師です。趣味は植物の生態を究めることと旅です。何か役立つ事がありましたら時間の許す限り協力します。

榎本　国男

[redacted]

孫の安眠枕は、「羊水に浮かんでいたときに聞いていた水音を発する枕」音は雑音で小さな瀧の連続音だ。この音の中に母体の心臓音も入っている。孫はこの音を聞くと眠りに入る。
人間は本能の中に水音が組み込まれているようだ。
好きな水辺は、六日町大字永松941　五十沢キャンプ場脇の五十沢川の水辺。

遠藤　光一

[redacted]

生まれは「蔵のまち喜多方」です。大熊先生の「河川工学」やっと単位をとったのがなつかしい。水は「循環資源」「歴史資源」「空間資源」。阿賀野川水系の運命共同体として参加させて下さい。思い出の水辺は万代橋直上流右岸。

西潟　清二

[redacted]

生まれも育ちも新潟っ子。小さいころから海辺で遊んでいましたが、小学校低学年の頃、六日町の親戚の近くを流れる魚野川で遊んだ際、思いきり流され死ぬ目に遭いました。
川の怖さが忘れられません。この会で恐怖心を払拭できればいいなと思います。

中村　吉則

[redacted]

五泉市まちづくり市民応援団員。第1期まちづくりコーディネーター養成講座修了生です。
地元で水河期より生き残った希少淡水魚「イバラトミヨ」を守る活動を始めました。オスの「トゲソ(トミヨの通称)」は、水草に巣を作り、愛情をかけて産卵された子どもを育てます。清流の里ごせんのシンボルとして人間が滅ぼしてきた自然をトゲソから学んでいます。好きな水辺は早出川の川原(五泉市太川橋付近)

風間　正道

[redacted]

あのですね、ついこの前トヤノ湯をボートでゆらゆら浮かびながら、市街地を見ていた時、水に漂う鳥の気持ちが少しだけ分かったような気がしました。「立場を変えて物事を見る」って大事ですよね。
ちなみに好きな水辺は「五十嵐浜」などです（日本海と松林と砂浜があるところ)。

風間　義浩

[redacted]

得意技は“投網打ち”と“刺網張り”、季節を問わず湖沼や川に入ることも多くあります。川の中からはいろんなものがいつもと違って見えてすごく刺激的です。こんな目線からも水辺を考えていきたいと思います。よろしくお願い致します。

野沢　倫

[redacted]

佐潟ハス採り検討会をきっかけに入会。現在は、自然とふれあい親しみながら交流する場としての自然公園施設(エコ・ミュージアム)を計画しています。浅草山麓(北魚沼郡)のブナ林あふれるネズモチ平で、落ち葉に彩られた、くねる小川を木道で守り、水辺に珍しい花が咲いたとか、こどもたちに何を体験させようかなど自然好きな方々の談笑する広場や楽しい研修室を夢見ているところです。

EVENT INFORMATION

■「地球が月になるとき」

日　時：12月6日（土）19：00～
場　所：新潟市民プラザ（前売3,000円／当日3,500円）
内　容：新潟オイリュトミー公演
主　催：新潟オイトリュミー研究会（025-260-7020）

■「新潟地下歩道」ワークショップ（予定）

日　時：12月24日（水）15：00～17：00
場　所：新潟地下歩道（万代地区内）　無料
内　容：万代シティまちづくりワークショップ／サンタクロースキャンディプレゼント／新潟地下歩道完成祝ミニコンサート
主　催：新潟地下歩道ワークショップ実行委員会

新潟の水辺を考える会（1997.11.5 現在）

■会の発足

'87年10月1日「柳川堀割物語」上映会とシンポジウム開催日に新潟の水辺を考える会発足。

■会の目的

私たちの身近な環境である水辺に関わる自然・歴史・風俗文化・生活・産業・スポーツ・レクリエーションならびにそのための科学・技術を探り、これからの望ましい水辺の姿を考え、提案し、地域にとっての水辺環境の向上に役立つことを目的とする。とにかく、水辺を楽しくしようと遊び半分、真面目半分で活動している。

■会則

特に、会則は設けず、水辺が好きで水辺と関わり行動をする人々の自主的な参加、自立的な協働とそれを通した会員同士の好縁=ネットワークづくりを促している。

■会費

個人会員　2,000 円、賛助会員（法人など）10,000 円、寄付は大いに歓迎、資金力は乏しいが会員や周辺応援団の汗・知恵・技・情報・熱意が基金として集積している。外部からの助成として、☆北陸建設弘済会助成100万円（95年）=通船川再生活動報告、
☆地球環境基金助成500万円（96年）=ラムサール全国大会、☆河川整備基金助成60万円（97年）=通船川市民マスタープラン作成活動、☆日本財団助成100万円（97年）=全国トンボサミット記念清潟生物目録、☆新潟県異業種交流センター地域活性化大賞100万円（97年）=（仮称）水辺の子供賞記念品、☆川面に歌を流す会15万円とCD50枚（97年）=使途未定、☆シンポや出版の売り上げ=その他出版物に運用

■会の組織

特に、組織会則は設けず、水辺が好きな上に、世話好きな人たちが世話人会を設けて会の運営をお手伝いしている。会の代表には大熊会長、世話人会は相楽、石月、井上、進などの世話人と会報「水辺だより」の高橋編集鳥、インターネットの杉山電脳人、財務や事務をまとめ、情報発信、会員集約する森本事務局長で構成し、通船川ネットワーク代表の梶、星島世話人などが加わっている。会計監査役を五十嵐、進両世話人で。

■会の事務局

〒950-21　新潟市大学南1-7821／森本、相楽
Phone 025-263-2733（呼）Fax 025-263-1134　e-mail :QZE06777@niftyserve.or.jp

■会報の編集局

〒951　新潟市関屋1422-10／高橋、杉山
Phone 025-234-1153　Fax 025-234-1173　e-mail :masayosi@on.rim.or.jp
http://www.on.rim.or.jp/~sugiyama/mizube.html

■情報・出版

○水辺の会会報「新潟の水辺だより」情報の発信：隔月発行（42号／1997.8現在）
○出版「ヨーロッパ近自然河川工法レポート」「水郷水都全国会議新潟大会報告」「自然環境境復元研究会新潟大会報告」「小川の増自然」「アラッハの森のビオトープ移植」「身近な水辺回廊の再生研究」「"人と湿地と生きものたち" ラムサールシンポジウム1996報告」「清潟の自然目録」紹介：大熊孝著「川がつくった川、人がつくった川」

■研究

○国内外の水辺環境の改善手法の取材・研究：89年／スイス～オランダ、ライン河畔近自然河川工法視察／95年北陸地域の活性化研究助成事業「身近な水辺回廊の再生研究（通船川を事例として）」
○水辺情報ネットワークの取材・研究：上下流連携の研究／信濃川ファンクラブ活動全国の水辺シンポへの参加／96.8.3～4水郷水都全国会議徳島大会など／全国の水辺の会との会報交換

■会員

／会員数：187会員(内 団体企業13)／県内(朝日、岡川、新発田、豊栄、津川、水原、京ケ瀬、安田、村松、新津、亀田、新潟、黒埼、月潟、味方、白根、西川、巻、岩室、吉田、下田、三条、加茂、長岡、広神、大和、六日町、湯沢、津南、頸城、安塚、両津)、札幌、鋼路、山形小国、会津、郡山、福島、茨城牛久、埼玉大宮、東京、調布、八王子、横浜、静岡、名古屋、神戸、山口、北九州／会員構成：主婦、農業技術者、会社員、自営の技術者、企業経営者、料理人、教師、大学教授、教育委員会職員、冒険指導者、町会議員、市会議員、県会議員、医師、弁護士、税理士、アーティスト、写真家、退職者、塾講師、福祉の専門家、ボランティア団体職員、消費者団体指導者、財団職員、行政計画者、公民館職員、コンサルタント、都市計画家、建築家、公園プランナー、造園技術者、水環境専門家、建設企業、河川専門家、河川管理者、河川技術者、下水道技術者、砂防技術者、自然環境保全コーディネーター、ジャーナリスト、アナウンサー、マンガ家、イラストレーター、デザイナー、文化プロデューサー、養魚家、魚類専門家、鳥類専門家、トンボ研究者、植物専門家、植物愛好家、民宿経営者、映画監督等

■発足と主な経過

'87年－新潟の水辺を考える会発足、10.1「柳川堀割物語」上映会とシンポジウム開催。約200人
'88年－新潟県内の河川湖沼水辺ウォーキング＆ウォッチング。水辺の音楽、鮭の川、都市河川での水辺の活動など水辺を肴にシンポジウム。水辺学習会。
'89年－近自然河川工法ライン川流域(スイス～ドイツ～オランダ)調査4名参加。C.W.ニコル氏を招き水辺の生態シンポジウム。第5回水郷水都全国会議柳川大会参加。
'90年－水辺ウォーキング＆ウォッチングと地方の水守との意見交換。水と食・酒、都市河川での水辺の活動等水辺を肴にシンポジウム。水辺学習会。第6回水郷水都全国会議栃木大会参加。
'91年－会員土方氏のロシア・ウラジオ～新潟日本海1000kmカヌー横断航海支援。第7回水郷水都全国会議大阪大会参加。
'92年－第8回水郷水都全国会議新潟大会開催(第5回柳川大会より参加)"人の交わる・文化の交わる川"をめぐり、対立・告発型水辺環境改善運動から交流型提案型市民運動へ。
'93年－第9回自然環境復元研究会新潟大会開催。自然環境の保護・復元・再生・創造をめぐる技術論、計画論、運動論。第9回水郷水都全国会議八王子大会参加。
'94年～'95年－全国水環境交流会(草加市、柏市)で話題提供、開かれたダム構想の三国川ロックフィルダムで交流Eボート大会参加。新潟県建設省7事務所主催道と川のフォーラム分科会コーディネーター協力。第10回水郷水都全国会議釧路大会参加。
'95年－'95年「北陸地域の活性化」に関する助成研究「市民参加による身近な水辺回廊の再生手法の研究、副題：都市河川回廊・通船川を事例として」を通船川ネットワーク市民の活動型共同研究ワークショップ支援。通船川ネットワーク設立、シンポジウム開催。五港景観会議参加ワークショップ支援。全国水環境交流会静岡大会参加。中国ハルビン市馬家溝河環境改善構想新潟視察訪問団との交流会議開催。第11回水郷水都全国会議横浜大会参加。
'96年－ラムサールシンポジウム新潟会議実行委員会、第12回水郷水都全国会議徳島大会参加、分科会ワークショップ支援。全国水環境交流会大阪大会参加。通船川ネットワーク活動。110年前の万代橋橋脚杭木活用検討公開ワークショップ参加。三国川ロックフィルダムで交流Eボート大会チーム参加。BSNラジオ水曜17:50水辺レポート放送への情報提供。
'97年－'97年河川整備基金助成活動「市民による都市河川回廊・通船川マスタープランづくり」。都市郊外の自然・ラムサール条約登録湿地「佐潟の自然を考える－ハス採り大会」。全国トンボサミット新潟・紫雲寺町大会。日本財団基金助成「清潟の自然目録」第1回にいがたの水辺賞。第13回水郷水都全国会議米子大会参加。通船川発表／浅井会員、佐潟発表／相楽世話人
'98年－○水辺ウォッチング○水辺シンポジウムと参加○水辺学習会○水辺の体験会
○水辺の共催イベント活動○水辺交流会○水辺の意見、提言○水辺環境に関する講演○水辺のNPOネットワーク活動○水辺情報の発信(予定)

■活動内容

○水辺ウォッチング：県内の河川湖沼水辺ウォーキング＆ウォッチング／年数回
○水辺シンポジウムと参加：年1回会員主体の公開シンポジウム。水郷水都会議、自然環境復元研究会、全国水環境交流会参加。
○水辺学習会：会員のもつ専門的な技術、技能、知識を活用した学習会で95年より市東地区公民館環境講座に会員講師協力参加。現在通船川ネットワークマスタープランづくりとして協働作業化。
○水辺の体験会：カヌー体験／阿賀野川、信濃川、ヨット体験、石鹸造り体験、佐潟ハス採り体験
○水辺の共催イベント活動：通船川クリーン作戦実行委員会、夢海岸、五港景観会議、下水道を考える会議、日本海カヌー横断航海、全国トンボサミット新潟・紫雲寺町大会実行委員会、信濃川ファンクラブとの共催事業(Eボート大会や川子供サミットなど)、にいがた市民環境会議、新潟県環境NGO大会実行委員会、新潟県消費者協会
○水辺交流会：やすらぎコンサート、長野水辺環境保全研究会との"考流会"(毎年)、95年哈尔濱新潟視察団との交流会、よこはまかわを考える会
○水辺の意見、提言：川と道フォーラム95、海岸環境整備懇談会、信濃川下流河川環境整備懇談会、やすらぎ堤懇談会
○水辺環境に関する講演：公民館、電力会社、下水道関連団体、商工会
○水辺のNPOネットワーク活動：通船川ネットワーク、全国水環境交流会、交流連携トラスト
○水辺情報の発信：会報「新潟の水辺だより」隔月発行(43号)、ニフティ川のフォーラム参加、インターネットホームページ開設中

編集後記

通船川シンポジウムのために急遽こしらえた43号です。ニコルさん原稿ありがとう。活動記録の写真パネルを同時に作成しています。自分でシャッターを押したもの、杉山君が押したもの、すべてなつかしい思い出が一挙にこみ上げてきます。ほんとうに活発に動いていると思います。市民運動というのは時間とエネルギーを使うものなのだと実感しています。活動が通船川と佐潟中心になり単調になっているのが玉にきずと言うところでしょうか。たまにはカヌーで川を下りましょう。会員そして非会員のみなさん原稿お待ちしています。

編集鳥(長)高橋正良　masayosi@on.rim.or.jp

●事務局　〒950-21新潟市大学南1丁目7821-5　㈱グリーンシグマ内 Phone 025-263-2733 Fax 025-263-1134
●編集　〒951 新潟市関屋1422-10　㈱サザンウインド内 Phone 025-234-1153 Fax 025-234-1173
●URL　http://www.on.rim.or.jp/~sugiyama/mizube.html